

灌頂院

東寺は政府の支援を受けた寺で、天皇、朝廷、都、そして国の鎮護のために建てられた。東寺は日本という国家の儀式において重要な役割を担っていた。毎年1月8日から14年まで、天皇の安寧と日本の守護のため、灌頂院で後七日の法(後七日御修法)を修する。また、教師から弟子への秘伝の伝授を記念した年中行事にも用いられる。

灌頂院は、9世紀に設立されて以来、何度も再建された。現在の建物は、1634年に徳川3代目の将軍である徳川家光による建造の命を受け、空海入定（恒久的な禅定に入ること）後800年を記念して作られた。灌頂院は、1月と4月に1日ずつの年2日のみ、一般公開されている。